

えど友ホームページ
<http://www.edo-tomo.jp/>

江戸東京博物館友の会会報

目次	平成 17 年度 定期総会開かれる……………	1	まんが『源内さんの江戸博さんぽ その5』……………	9
	平成 16 年度事業報告……………	2	えど友プラザ『猿若まち VS. 猿若ちょう』……………	9
	平成 17 年度事業計画/役員選出……………	3	江戸博界限④	
	竹内館長記念講演『天保の改革と江戸』……………	4	『隅田川橋めぐり(1)と麦酒倶楽部・ポパイの台所』……………	10
	友の会セミナー『江戸の犯罪白書』……………	5	催事案内……………	11
	見学会『旧銀座れんが街と周辺の史跡探訪』……………	6	えど友サークルだより/会員優待のお知らせ……………	12
	見学会『北関東の小江戸—栃木市の蔵造り街探訪』……………	7		
	江戸博クリップ『サツキとメイの家』……………	7	平成 16 年度収支決算報告……………	別冊 1
	特別内覧会『新シルクロード展』/「会議・会合日誌」……………	8	平成 17 年度事業予算/会員数の推移……………	別冊 2

平成 17 年度定期総会開催 新役員体制でさらに充実した活動を…

江戸東京博物館友の会の平成 17 年度定期総会は、5 月 27 日(金)午後 1 時 30 分から江戸博 1 階会議室において開催されました。

清水昌紘さんの司会で開会、山本市郎会長のあいさつに続いて、来賓として木村俊弘副館長、小林淳一事業企画課長のご祝辞をいただき議事に入りました。

議長には藤村武雄さん、副議長に上田太一さん、書記に藤井文乃さんと稲垣武志さんが選ばれました。

冒頭、藤村議長より出席者数の確認があり、出席者 148 名、議決権行使書提出者 411 名、合計 559 名で規定数を満たしており、総会が成立したことが報告されました。



上程された議案は 3 件です。

- 1) 平成 16 年度事業報告ならびに収支決算報告
 - 2) 平成 17 年度事業計画案ならびに事業予算案
 - 3) 役員ならびに監事の選出
- 一部質疑応答があったものの各議案とも賛成多数で原案どおり可決承認されました。

その後新役員全員と監事が紹介され、

役員の互選で新会長に岩松精さんが決定したことが報告されました。岩松会長から新役員を代表して就任のあいさつ(3 ページ参照)がありました。

今年度の事業計画は、アンケートの結果などを踏まえて、会員の意見要望に沿ったものになっており、セミナー 10 回、古文書講座 27 回、見学会 8 回、内覧会 6 回など、前年に引き続き、充実した内容となっています。

総会は午後 3 時に閉会し、休憩のあと竹内誠館長による記念講演「天保の改革と江戸」(要録は 4 ページ)が行われました。

午後 5 時からは、2 階のレストラン「モア」で懇親会がひらかれ、会員どうし交歓のひとつときを過ごしました。

会員資格継続 手続きの お願い

友の会では、会則により会員資格の有効期限は、入会の日から 1 年間となっています。間もなく有効期限を迎える方には「継続手続きのお願い」が郵送されますので、継続ご希望の場合は同封の払込用紙にて年会費の納入をお願いいたします。友の会は会員の皆さまによって支えられていますので、1 人でも多くの方の継続をお待ちしています。

■継続手続きをされませんと、友の会活動への参加や会員特典を受けられなくなりますので、ご注意ください。

好評を博した各種催事

—延べ3300名が参加—

〔活動概況〕

平成16年度は「友の会」活動の4年日あたり、前年度に引き続き活動の推進や組織の充実並びに各部会間の緊密化に一層努力しました。

当初の計画通り、友の会セミナー、古文書講座、見学会、内覧会、会報『えど友』・「えど友PR版2004」の発行、他の博物館・友の会との交流など、多岐にわたる活動を展開、多くの会員の参加、協力を得ました。

また、平成15年度実施した「友の会実態調査」、および各事業ごとに参加者あてに行ったアンケートの結果などを参考にしながら、多くの会員の充実感を得られるよう、事業、広報、総務各部会一体となって努めてまいりました。

なお、会員の自主的なサークル「えど友サークル」については、「江戸三十六見附を巡る会」「落語・講談を楽しむ会」「江戸の理解を深める会」がスタートし、会員相互の親睦を兼ねて有意義な活動が展開されています。

今後とも会員各位におかれましては友の会活動の一層の発展のためご支援、ご協力をお願い申し上げます。

また前年度の定期総会で提起された規約の一部表記の改訂については3月の役員会において検討の結果、特に運営上差し支えないとの結論となりましたので、規約の修正はしないことにいたしました。

各部会が実施した事業の概要は以下のとおりです。

1. 事業部会

16年度の事業総括は次のとおりです。

事業名	回数	参加者数
①友の会セミナー	13回	934人
②古文書講座	27回	1,526人
③見学会	7回	456人
④内覧会	5回	398人
計	52回	3,314人

2. 広報部会

年初に担当部員の突然の退部という事態があり、ホームページ「えど友Web」が一時中断のやむなきに至りましたが、その他はおおむね年初の計画通り遂行しました。

会報『えど友』は奇数月に年6回発行しました。読みやすさ、レイアウト等の改善をするため、版下作成の外注

化に向けて検討しました。

ホームページ「えど友Web」(<http://www.edo-tomo.jp/>)は幸いにも作成協力の申出が会員よりあり、昨年11月に全面リニューアルして再開することができました。

その他「えど友PR版2004」を作成しました。また、2月には足立区立郷土博物館友の会(足立史談会)を訪問、交流をはかりました。

3. 総務部会

総会の運営・広報印刷物の発送などの業務を事業部会・広報部会と連携をとり円滑に行いました。なお部会員相互の親睦と研修を図るため、見学会などを行いました。

(平成16年度収支決算報告)は別冊1ページのとおり、(平成16年度監査報告)は下記のとおりです。

監査報告書 (謄本)

江戸東京博物館友の会規約第7条の3の5の規定に基づき、私たちは平成16年4月1日から平成17年3月31日までの平成16年度・友の会活動の執行を監査しました。その結果以下の通り報告します。

1. 監査の方法の概要

私たち監事は、役員会その他重要な会議に出席するとともに、運営委員等から活動の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、活動の運営並びに収支に関する会計帳簿・証票等の調査を行い、収支決算書類の内容について検討しました。

2. 監査の結果

(1)事業活動報告は、目的に従い、活動の状況を正しく示し、活動は計画通り推進されたものと認めます。

1) 活動内容において、会員の要望に応えたセミナーは月1回ペースで開催され延べ参加者数は昨年の2倍に増え、見学会の人気も高まり参加者数が大幅に増えるなど、事業部会員並びに広報部会員のたいなる努力を評価します。

2) 今年度の新規会員数は残念ながら計画に達しませんでした。今後は現状会員数レベルを維持するためにも各部会協力のもと、新規会員増に向けた活動をさらに強化されることを期待したいものです。

(2)収支等に関しては、会計伝票・帳簿類は、記載すべき事項を正しく記載し、収支決算書の記載と合致しているものと認めます。

(3)収支決算書は会計原則に則り、収支の状況を正しく示しているものと認めます。

(4)友の会役員の職務遂行に関する不正行為または、法令もしくは友の会の規約に違反する事実は認められません。

平成17年4月21日

江戸東京博物館友の会

監事 大谷善四郎 ㊟

監事 川島 幸雄 ㊟

第3号議案

役員ならびに監事選出

新会長に岩松精氏

役員・監事に15氏を選出

選出された新役員15氏とその互選による担当は次のとおりです。

会長：岩松精

副会長：藤永昭彦、松原良

会計：管林義隆、玉木達二

運営委員：芦沢陽雨山、安西洵

岡橋園子、川辺愛子

後藤幸子、菅沼和男

谷岡文彦、伴野睦雄

監事：井波良子、畠中勇

*新役員、監事の紹介は次号に掲載予定

この度はからずも友の会会長に選任されました。うまく業務がつとまるか不安な気持ちもありますが、選任された以上一生懸命頑張ることを誓います。

さて、前会長の山本さんには、会の創設からその後の4年間にわたる会の運営に格別の尽力をされ、今日会員も1,000人に達し、江戸博からも喜ばれる会に育成されました。その尽力に対しこの場を借りて、厚くお礼申し上げます。またこの会長を補佐して来られた前役員・監事の皆様にも同様のお礼を申し上げます。

こうして、今回私を含めて新しい役員が会員の皆さまのご承認を得て、こ

れからの友の会の運営をすることとなり、その責任の重大さに全員気を引き締めて努力するつもりです。

私自身は、父が東京生まれでないの

で、1.5代目の江戸っ子を自認しています。この江戸博の館長さんのように純粋の江戸っ子ではありませんが、下町大好き人間です。ささやかですが、今まで学んできた江戸・東京の知識を生かし、友の会事業の充実、円滑な運営に努めてまいります。しかし何といても会の主体は会員の皆さまです。どうか皆さまの遠慮のない声を会の役員などにお伝えいただくようお願いいたします。

新会長あいさつ

岩松 精



れからの友の会の運営をすることとなり、その責任の重大さに全員気を引き締めて努力するつもりです。

第2号議案 平成17年度事業計画ならびに事業予算

4～5月にもセミナーや見学会を実施へ

—本年度の事業計画・予算決まる—

〔基本方針〕

平成16年度は、報告の通り、非常に多くの事業が実施され、充実した1年でした。本年度も博物館活動は引き続き活況を呈するものと思われまので、これに平行して友の会活動のなお一層の充実はもとより、効率的な運営にも努めたいと考えています。

本年度は、一昨年度の「友の会実態調査」および各事業で得たアンケートなどの結果を踏まえ、下記の基本活動方針を掲げました。

1. 会員の意見要望を一層吸収、事業活動に反映させ、会員の満足が得られるよう活動の充実を図る。
2. 会員の新規並びに継続の増強を図る。
3. 博物館の協力のもと、自主的事業展開を図る。
4. 計画事業へのより多くの会員参加を図る。
5. 会員相互のコミュニケーションの機会を作る。

以上の基本方針に基づく各部会の計画は次のとおりです。

1. 事業部会

前年度に引き続き、事業活動の基本方針に基づき事業を推進します。

事業としては、1. 友の会セミナー、2. 古文書講座、3. 見学会、4. 内覧会、5. 体験講座などの事業を柱として、事業計画を策定しました。なお友の会の財政状況に鑑み、今後の事業の円滑運用と質的拡充に向かって参加費の見直しが必要であると考え、具体的に各事業一単位500円の参加費（但し古文書講座は一期3回1,500円）をお願いすることとしました。これらの事情をご賢察の上ご了承くださるようお願いいたします。

前年度までは、総会前に新年度の事業を実施することを控えていましたが、会員の要望により、総会前の4～5月にも事業を実施することとし、役員会の承認を得て実施することにしました。

2. 広報部会

1. 会報『えど友』
従来通り、隔月で年6回発行します。

特に17年度は読みやすく親しみやすい会報を目指し、版下作成作業を外注します。また引き続き会員からの積極的な投稿を呼びかけることとします。

2. ホームページ「えど友Web」
ホームページの特性である速報性を一層効果あるものとするため、できるだけ細やかなページ更新に努めます。
3. 「えど友PR版2005」
訴求効果を高めるため、レイアウトの外注を考えます。新規会員加入の促進のため、その配布を各部会と共同で実施します。

3. 総務部会

1. 総会の運営
2. 館の行事（内覧会）などの受付
3. 各種発送業務（会報『えど友』・江戸東京博物館News等）。
4. 新規会員の募集活動
5. サークル活動の推進

〔平成17年度事業予算〕は別冊2ページのとおりで。

友の会発足時からの会員数の推移については別冊2ページを参照。

天保の改革と江戸

江戸東京博物館 竹内 誠 館長



水野忠邦 (1794 ~ 1851)
(当日のレジュメより)

水野忠邦の歩み

天保12年(1841)幕政の改革を行った水野忠邦(1794~1851)は、唐津藩主水野忠光の子として生まれ、文化9年(1812)唐津藩主に就任します。長崎警固役も兼任します。長崎貿易港を守る役目です。貿易の利益がもらえる大変いい役です。唐津藩の石高は6万石ですが、実質は20万石といわれています。

しかし、彼の志は高く幕政を動かしたいという気構えを持っていましたが、唐津藩主では、幕閣には入れません。このため老中になれる藩に行こうと努力します。文化14年(1817)、実質的に石高は下がりますが、浜松藩主になります。やがて望み通り文政8年(1825)大坂城代に抜擢され、文政9年(1826)には京都所司代に昇進します。彼の望みは本丸老中です。青雲の要路にいた彼は、国元(浜松藩)に命じて2400両の予算を出させます。それを老中や役に立つ人たちに配ります。こうして文政10年(1827)に西丸老中に就任し、天保5年(1834)に待望の本丸老中になるのです。

改革への道

忠邦は使命感を持って本丸老中になりました。けれどなかなか思い通りには幕政を動かすことはできません。11代将軍家斉が大御所として、12代将軍家慶の後ろにひかえていたからです。12代将軍は息子の家慶ですが、父である家斉に家慶は何も言えなかつ

たのです。事実上の大御所政治が続き、その周りには家斉お気に入りの役人がたくさんいたのです。このため家慶派は家斉派に圧倒的に負けてしまうのです。

天保12年(1841)閏^{うるす}正月に家斉が死ぬと忠邦は翌月から動き出します。こうして同年5月に天保の改革が始まるのです。

まず、大御所についていた役人を一



掃します。そして、改革開始の触を出します。忠邦は出世の道を駆け上がってきた人です。権威を借りなければ武士も町人もついてはきません。触には享保と寛政の改革の「御趣意を以て」となっています。

忠邦はそれまでにない厳しさと儉約令の励行や風俗の取り締まりを行います。更に問屋などの株仲間の解散を命じ、商人の自由な営業を認め、物価を引き下げさせました。また農村の人口を増やすための人返し、江戸、大坂周辺に直轄地を集めようとして上知令を出します。

人材の配置

忠邦の人選は非常にバランス感覚のあるものでした。まず老中に外様

の松代藩から真田幸貫を家格を譜代に変えて登用します。幸貫は寛政の改革を行った松平定信の息子なので適材でした。また開明派官僚と言われた川路^{としあきら}聖謨(この時の小普請奉行)を重用します。川路は田沼政治を高く評価した人です。

町奉行には下情に通じた遠山景元と矢部定謙を登用。忠邦は真面目でこちこちのような顔をしながら清濁併せ飲むような面もあったのです。ただし、遠山も矢部も忠邦の施政方針は厳し過ぎて江戸が寂れると反対します。忠邦は寂れても風俗が直ればいいのだと言うのです。

芝居町の移転

忠邦と遠山が真っ向から対立するのは芝居町の移転です。丁度この時、芝居町が焼けてしまいました。すぐに工事にかかろうとする業者に忠邦は待ったをかけます。芝居を全部撤廃させるか、所替えをしようと言うのです。遠山は芝居町の人々のことを思って憤然と反対意見を言います。しかし結局忠邦に従わなければなりません。江戸三座(中村座、市村座、河原崎座)を浅草の小出伊勢守下屋敷の跡地、11,500坪(37,950㎡)に場所替えさせ、猿若町と命名します。経営難に苦しんでいたオーナーたちは、移転費用2750両ずつもらったので助かった面もあります。また、忠邦は寄席も撤廃させようとしていますが、遠山の意見で当時233軒あったのをわずか24軒だけ残します。しかし、改革が終わるとまた増えます。

2年で終わった幕政改革

懸命に改革を志した水野忠邦でしたが、あまりにもきびしい儉約令や風俗の取り締まり、上知令などに大名や旗本からはげしい反対を受けて、わずか2年で失脚するのです。

【記録】文：広報部会・岡橋園子
写真：同・佐藤幸彦

江戸の犯罪白書

講師 重松一義さん

(東京家庭裁判所調停委員、元中央学院大学教授)



江戸幕府と治安

元禄時代(1688～1703)の赤穂浪士の討ち入りを区切りとして前後期に分け、江戸時代の治安を見てみます。

前期の幕府が一番心配していたのは、豊臣秀吉から恩恵を被った者たちが、江戸城に攻めてくるのではないかとということでした。3代將軍までは枕を高くして眠れなかったといえます。

慶安4年(1651)家光の死の直後、由比正雪、丸橋忠弥らの陰謀が露見します。前者は駿府で自殺、後者は江戸で捕らえられ処刑されます。

隠れキリシタンの弾圧もありました。寛永14～15年(1637～1638)に島原の乱が起きます。老中の松平信綱が九州の諸大名を指揮して城を攻略し事件を取めました。

異様な事件としては、綱吉の「生類哀れみの令」の頒発があります。貞享4年(1687)から宝永5年(1708)まで続きましたが、この他には武士が刀を振り回すこともなく平和な後期に移行します。

ここで赤穂浪士の事件が起こります。江戸市民の“公平を欠く裁きだ”という感情を考慮して幕府は、吉良義央の養子義周を諏訪の高島城に移します。義周は2年足らずで病没しています。こうして喧嘩両成敗として取めたので市民も納得したのです。後期の初めは、地震が多く浅間山の噴火、津波、冷害で地方の人たちが江戸へ流れ込み、幕府はその対策に追われます。

裁判の基準は喧嘩両成敗

裁判の基準は、鎌倉時代から引き継

がれた喧嘩両成敗という方法です。公論が赤穂事件以来、刑罰の基準になりました。奉行所の中に例線方という係がいて、今までの事件を繰り出して刑罰の判断をしたのです。判決は不届き、不埒のどちらかで罪の重さが決まります。不届きは幕府を欺く者で島流しか死罪になります。不埒は道に背いている者で罪は軽いのです。身分、男と女、子供で判決の基準が分けられていました。

見懲という刑があり、実際に刑を見せて懲らしめる、一種の視聴覚教育です。搦めは、血縁関係は全部投獄されます。武士の刑罰には、縁座というのがある、妻や子供も牢屋に入られました。

油断の法理は、戸を閉め忘れて泥棒に入られたり、道中でごまのハエにかすめ取られたなどに適用されました。

証拠を得て人を裁く証拠裁判主義。認定の法理は察度詰めと言ひ、本人がどうしても自供しない場合、ごう問にかけられます。

幕府の刑法典「御定書」

「御定書」ができたのは、江戸の中頃になってからです。身分別に適用され、重刑は武士、庶民に関わらず密通、主殺し、火付けです。密通は女性の方が罪が重かったのです。主殺しの裁きの例としては、家康の10男で、紀州藩の初代藩主、徳川頼宣が裁いた事件があります。熊野の山奥で息子が父親を殺しました。息子は、いつも飲んだくれて母親をいじめる父親をなたで殺したのですが、どうしても悪いとは認めませんでした。そこで、頼宣の直裁

判で救えざる罪だと言って死刑になりました。その他、男はばくち、盗み、喧嘩などがありますが、江戸十里四方所払いという罪になります。吉原の事件では、火消しつぼの中身を灰と違って二階から捨てた女が火が見えたと密告され、島流し・銃殺刑になりました。木造建築なので火事を恐れたからで、これは手落ちという罪です。

武士の犯罪には、無礼討ちとあだ討ちがあります。無礼討ちは刀のさやに少し触れただけでも切り捨てるというものです。また参勤交代や大名行列を横切った者も無礼討ちになります。ただし子安婆(注：現代の助産師)だけは横切ってもよかったです。

子供には、寺子屋仕置きというのがある、師匠は厳しくしかる権限がありました。教育する手段は非常によくできていて、店仕置きというのもあり、地方からできて小僧になった子供を厳しくしつけました。

江戸の牢屋敷

自身番や辻番で日明かしなどに捕まると、番屋へ与力が出張して調べます。ここで有罪になると小伝馬町の牢屋敷へ送られます。未決はなく、ここへ送られれば黒だと認定されたことになるのです。牢に入ると地獄のさたも金次第で都留という持参金を牢名主に渡します。牢名主は見張り畳という10枚ばかり畳を積み上げた上に座っています。その後ろの壁の所へ隠れるように座らせてもらえます。角の隠居と呼ばれ特別待遇です。しかしこれはお金のいる間だけです。

寛政の改革の時に牢屋敷の風紀が乱れるので別に百姓牢というのをつくり、農民に悪い風紀が伝染しないように分けました。この時に長谷川平蔵が石川島に人足寄場を作り、手仕事を覚えさせたりしたのです。

【記録】文：広報部会・岡橋園子
写真：同・佐藤幸彦

旧銀座れんが街と周辺の史跡探訪



▲大和生命ビルの前で鹿鳴館跡を見る

明治の不燃化構造・れんが街

今回は海外高級ブランドの店が立ち並ぶファッションの街、銀座探訪です。明治2年(1869)、新町と呼ばれていた地域が、銀座と呼ばれるようになりました。明治5年(1872)の大火後、明治政府により不燃化都市計画が立てられ、5年後には銀座れんが街全街区が完成しました。大正12年(1923)関東大震災のため当時の建物は焼失してしまいましたが、所々に残るゆかりの史跡を探訪し、モガやモボが闊歩した銀座を思い描きながら、旧新橋停車場から京橋まで歩きました。

5月7日午前中まで降っていた雨も上がり、旧新橋停車場には100名を越す参加者が集まりました。5班に分かれ、まず銀座9丁目の銀座ナインに向かいました。昭和39年(1964)に汐留川が埋め立てられた際、架かっていた旧新橋は撤去されましたが、橋の一部が保存されています。銀座ナインの地下食堂街には、かつての付近の写真が展示されていました。

次に向かった金春通りは、高級クラブがひしめく銀座裏通りです。通りの入り口には、その名前の由来(能役者金春家)が刻まれた碑があり、使用されているれんがは、かつての銀座れんが街のれんがですが、1m位の小さな碑から、往時を思い浮かべるのは困難というもの。

8丁目には資生堂パーラーがあります。数年前に建て替えられ、日の覚めるような深紅の外装は、この辺りには江戸時代に朱座があり、それを意識してのデザインと思われるような斬新な建築でした。

外堀通りを渡り、JR高架下を潜り、

日比谷方面に向かいました。左手に日比谷公園の新緑を見ながら進んでいきますと、鹿鳴館跡に建つ大和生命ビルが見えてきました。120年程前、深緑の庭園に囲まれた瀟洒な白い洋館、鹿鳴館で夜ごと、各国の公使や貴婦人たちが華やかな夜会を繰り広げていたであろう往時の面影を想像してみましたが、眼前に写るのは高層ビル群ばかり。隔世の感を禁じ得ません。

戦火を免れた柳

北隣の帝国ホテルの前を通り、みゆき通りに入りました。みゆき通りの名前の由来は、古くは徳川家光公が浜御殿に向かう際に、新しくは明治天皇が海軍学校に行幸した際に通ったことによるそうです。途中、左手に泰明小学校がありますが、この小学校に学んだ文化人たちの碑が建てられています。その傍らには2代目の柳が青々と茂っていました。明治の初代が撤去され、昭和7年(1932)に2代目が誕生したそうですが、東京大空襲でほとんど焼失したので、戦火を免れた貴重な柳と言えます。

数寄屋橋公園で一休みしたあと、後半に移ります。松坂屋銀座店は、一橋大学の前身である商法講習所跡に建てられ、大正13年(1924)に土足入場を採用したわが国最初のデパートとして開店した為、通勤途中のサラリーマンが松坂屋に寄り道して、洗面や洗濯を済ませることもあったそうです。

銀座と言いますと、4丁目の和光(服部)の時計台がおなじみですが、その和光は朝野新聞社跡です。北隣の木村屋総本店は、元ははず向かいのUFJ銀行の辺りにあったそうです。50歳

を過ぎて明治維新を迎えた木村安兵衛は、一念発起してパンの製造にチャレンジし、日本人の好みにあった独自のパンを生み出しました。まさに熟年パワーのシンボルとも言える快男爺です。

夕暮れにはガス灯が

電気灯記念碑や営業250年の呉服商越後屋を見ながら、1丁目まで歩いていきますと、首都高の下の派出所のそばに、銀座発祥の地の碑が建てられていました。銀座とは銀貨の鑄造を独占的に請け負った組合で、銀座1~4丁目までは、座人や両替商の住居が立ち並んでいたそうです。

首都高の下を通り抜けて、すぐ左手に、京橋大根河岸青物市場跡の碑が見えます。京橋川を介した物資の流通に適した位置で、昭和10年(1935)築地市場に合併されるまで青物市場として栄えました。川の埋め立てと共に撤去された京橋の擬宝珠は、中央通り反対側のガス灯そばに保存されています。

私たちは、最後の見学場所であるそのガス灯に向かいました。ランプは複製ですが、高さ3.4mの灯柱は明治7年(1874)に銀座通りに建てられ現存しているのを、移築したものです。夕焼けが群青の空を徐々に染めつつある時、点灯夫が長い棒を掲げて、ランプに点火して回る風景を想像すると、イングリッドバーグマン主演映画「ガス灯」が思い出されてきます。これで無事終了。

2次会は、松坂屋裏のサッポロビールライオンで行われ、参加者40数名の大盛況。思う存分ビールやワインを飲み干しながら、歴史談義に花が咲きました。

【取材】文・写真：広報部会・高澤恵美子

北関東の小江戸—栃木市の蔵造り街探訪



▲幸来橋から見る巴波川と塚田歴史伝説館

今回は関東の小江戸巡りの第2弾として北関東の栃木市を探訪しました。栃木市は、明治時代には栃木県の県庁所在地だったのですが、残念ながら東北線の開通により宇都宮に県庁が移転してから、やや寂しくなっていました。しかし、天正時代には小さいながら城もあり、江戸時代には日光街道の一つ例幣使街道の宿場町としてにぎわい、さらに日光東照宮造営のとき用材の集積地として商工業が発展してきました。

街の中央を流れる^{うづまがわ}巴波川は、当時は水量も多く江戸への水運が盛んで、その関係から江戸の文化が結構この栃木に入り込んでいました。かつての繁栄の時代の面影として豪華な蔵が多く残り、それらの家には江戸や全国からの美術工芸品が多く保存されています。

特に今回は栃木市観光ガイドボランティアの方3人をお願いしてじっくりと探訪することにしました。参加者54名は東武線栃木駅に集合、そのま

ま全員が巴波川で遊泳する鯉にあいさつ?したあと、塚田歴史伝説館の長さ120mも続く素晴らしい蔵を外から見て栃木山車会館に到着。ここでいったん解散、昼食です。昼食は蔵造りの横山郷土館の食堂の本格的な釜で炊いた釜飯定食で“おこげ”がいっぱいあり、参加者から「久しぶり」との声があがりました。昼食後再び山車会館に集まり、ボランティアの先導で3班に分かれて出発しました。

まず中央通りに面した3つの豪華な蔵を眺め、どっしりとした風格にみなさん感激! 続いて最前通り過ぎた塚田歴史伝説館を見学しました。ここはかつての豪商塚田家の白壁土蔵造りで、中には江戸時代の人形山車が展示され、またハイテクロボットのユーモアたっぷりの案内などに一同大いに笑いました。

川畔を少し歩いて山車会館に行きショーを見学、佐原の山車とはまた違う江戸型の豪華な山車でした。ここ

から昼食をとった横山郷土館に行きました。明治時代に銀行を創立、その後、^{しもつけ}下野の特産・麻の間屋だった家で、前を流れる巴波川に大変マッチした絵のような風景でした。

ここから大正時代の建築として残されている旧栃木県庁舎を眺め、やや平坦な道を歩いて岡田記念館別館の翁島の別邸に着きました。ここは木造建築の粋を極めた名建築です。そして岡田記念館から旧日光例幣使街道を歩いて中央大通りに出て、大正時代の床屋や蔵造りの郵便局も見ました。

最後の見学場所はあだち考古館で、江戸気分いっぱいの文化とロマンに満ちた蔵の美術館でした。

このあと、出発点の山車会館に戻って各班が合流、解散となりましたが、参加したみなさん栃木の蔵に満足されたように感じられました。

【報告】文：事業部会・岩松精
写真：同・清水昌紘



江戸博クリップ

サツキとメイの家

学芸員 早川典子

愛・地球博では、アニメーション映画「となりのトトロ」に出てくる架空の住宅「草壁家」を再現した「サツキとメイの家」が話題になっている。江戸東京たても園の広報誌「江戸東京たても園だより」11号に掲載しているインタビューによれば、この家は宮崎駿監督自身が住んでいた杉並区にあった和洋折衷住宅をモデルにしていると言われている。大正から昭和初期によく建てられたこのような住宅は、東京近郊ではいわゆる「文化住宅」と呼ばれていた。和風住宅の玄関協の一

室を洋間とし、椅子とテーブルを置いて応接間として使用するのが当時流行した。

「となりのトトロ」に出てくるこの住宅は、応接間として計画された部屋が、考古学の研究者であるお父さんの書斎として使われている。映画の中でも、モダンなステンドグラスがついた部屋として描かれている。

サツキとメイの家は、新しい材料を使って建てられているが、建築方法は当時の建て方を調査した上で、可能な限り再現している。この架空の住宅の

再現には、たても園の建物の事例を参考にしている部分が多い。

たても園は、できる限り古い部材を使って建てているので、保存の観点から見学の自由を制限しなければならぬ部分があるが、サツキとメイの家では、見学者は自由に見ることが出来る。この建物を通じて、多くの人が古い建物に興味を持ってくれることを祈っている。

◆このコラムは江戸東京博物館の学芸員や講師など館職員の方に執筆をお願いしています。

幻の都・楼蘭から 永遠の都・西安まで 企画展「新シルクロード展」



「新シルクロード展」の開会式と内覧会は4月15日午後4時から開催されました。今回の主な主催者は江戸東京博物館、NHK、産経新聞社、中華人民共和国新疆ウイグル自治区文物局、中華人民共和国陝西省文物局等です。

シルクロードの人気は流石で、開会式のホールは、内覧会としては珍しく、人があふれていました。

冒頭、竹内館長から江戸東京博物館の目的が江戸文化、都市の歴史、異文化交流の研究と啓もうであることを紹介し、幻の都・楼蘭から、永遠の都・西安へ、中国でも未発表の最近の出土

品を含めて130点を展示するこの展覧会で、シルクロードの悠久の歴史を味わっていただきたい、と挨拶がありました。今年は中国新疆ウイグル自治区成立50周年で、同自治区文物局長からは、シルクロードは交流・平和の道で、今回の「新シルクロード展」が中日両国の文化交流と相互理解を深め、何代にもわたる友好を促進することを、心から希望する旨、挨拶がありました。

折から北京で反日デモが行われた直後でもあり、ゲストの挨拶には、現代史では歴史観の差異でしばしば衝突があり、古い歴史からいろいろの共同作業をして行くことが望ましいのではないかと、という意見もありました。産経新聞の住田良能社長は、ここにはフジ産経グループ、NHK、中国大使、と最近ニュースをにぎわしている代表が一堂に会していると述べて聴衆を笑わせ、臨席の王毅大使も苦笑していました。

開会式のあと編鐘と銅鑼に、笙を用いたミニコンサートが行われましたが、時間が足りなかったためか演奏者の紹

介や曲の解説もなく、曲もシルクロードの音楽とも思えず、難解でした。

このあと、楼蘭・タクラマカン・天山南路・天山北路とトルファン・西安「永遠の都」の5部構成になっている展示を見学しました。楼蘭については、2002年及び2003年の出土品が主に展示されています。最近の成果です。タクラマカン砂漠の南ダングンウィリク(丹丹烏里克)では日本の仏教大学が新疆ウイグル自治区文物局および新疆文物考古研究所と協力して仏教遺跡を調査し、多くの壁画を発掘しています。これも多くは2002年の出土、最近の成果です。トルファンでは1972年頃出土の胡人俑、動物俑等、いずれも墓地の副葬品ですが興味深いものがあります。そして西安の部は20世紀中頃から2000年までの出土品でさまざまな人物俑が風俗や風貌的に面白く、豊富な美人像、胡人俑、そして三彩の逸品、素晴らしい唐代の金工品、と永遠の都の輝きは、じっと見ている見飽きない心地がします。(当企画展は7月3日が最終日です)

【取材】文・写真：広報部会・佐藤幸彦

◆役員会

4月14日(木)18時から開催。4月1日付で博物館の組織変更があり、今後事業企画課展示係が友の会担当になるとの説明があった。また総会通知・議案書の作成手順などを打合せした。出席10名+次期役員候補7名。

4月21日(木)18時から開催。総会議案書について審議、決定した。出席10名+7名。

5月12日(木)18時から開催。総会当日の段取りを打合せたほか、博物館の組織変更にとまなう友の会側の対応、館への要望をまとめた。出席9名+6名。

◆博物館・友の会連絡協議会

4月27日(水)13時から開催。館側から竹内館長、木村副館長、小澤

会議・会合日誌

2005/4～2005/5

教授、小林事業企画課長、庄村管理課長が出席、友の会からは山本会長以下役員10名(+8名)が出席した。友の会から16年度の事業・決算報告、17年度の事業計画・予算について説明し、館からは17年度の事業予定などについて説明があり、今後の協力を確認し合った。

◆事業部会

4月7日(木)18時から開催。3月事業の報告、4～5月事業の確認、担当の決定などのほか、16年度の事業参加者・収支の実績集計結果の確認を行った。出席19名。

5月6日(金)18時から開催。6月までの事業の確認、担当の決定のほ

か、17年度事業計画の具体案などを話し合った。出席16名。

◆広報部会

4月20日(水)15時から開催。『えど友』第25号の確認、送稿手順の見直し、第26号の内容と分担などを話し合った。出席7名。

5月20日(金)18時から開催。『えど友』第25号の反省、第26号の内容確認のほか、『えど友Web版』トップページのリニューアルについても話し合った。出席9名。

◆総務部会

4月28日(木)13時から『えど友25号』、総会案内・議案書などの発送作業を行った。出席8名。

5月11日(木)15時から今後の部会活動のあり方などを話し合った。出席10名。

常識の落とし穴

—「猿若まち」vs.「猿若ちょう」

森川和夫

猿若町といえば、天保の改革で芝居三座が強制移転をさせられた先の町名で、江戸に多少とも興味のある人にはおなじみの名前である。

八世坂東三津五郎が昭和48年(1973)に書いた「猿若町の思い出」と題する小文に次のような一節がある。「…だいたい猿若ちょうと言うのか、猿若まちというのかいまだにわからない。父や六代日菊五郎は、『猿若まち』というし、もっと年をとった人たちは『猿若ちょうの時分はねエ』と言っていた。時代によって、言い方がちがうのは当然だろう。だが、江戸時代はどっちの呼び方をしたのだろうか。…はっきりしたことが知りたいものである」(「浅草猿若町」新美武編)

江戸好き人間にとってお馴染みの町の呼び方がはっきりしないとあれば、調べてみたくなるのが人情だ。周りの人に聞いてみると、「ちょう」と読むのが歴史好きには常識などと、「さるわかちょう」学派が圧倒的の大多数で、なかには「両方あるのでどちらでもいい」という人もいる。

そこで、「仮名がふつてある戦前の一次資料」を対象を限定して調べてみた。例えば、天保13年(1842)、市村・中村両座が猿若町に移った直後に出版された溪斎英泉筆「猿若町芝居之略図」には「さるわかまち」と仮名がふつてある。そのほか、「武江年表」、馬喰町四丁目吉田屋文三郎版「江戸方角往来」、通式丁日山城屋佐兵衛刊「江戸方角抄」、広重の「絵本江戸土産」、二世広重「東都三十六景猿わかまち」、三代広重「東京名勝図会猿若まち」など、江戸時代・明治初期の資料はみん

源内さんの江戸真さんぽ ⑤



原けん

な「さるわかまち」だ。明治初期といえば、折から始まった郵便配達の便宜のために当時の郵便寮が発行した「地名字引」も「まち」。それ以降の文献も漱石の『硝子戸の中』、荷風の『楽屋十二時』、長谷川時雨の『旧聞日本橋』などことごとく「まち」である。

一方、「さるわかちょう」と仮名をふつた文献もないではない。昭和14年刊「東京府市区町村便覧」には「さるわかちょう」とある。「猿若ちょうの時分はねエ」と言った人もいたわけだから、もっと探せば「ちょう」と仮名をふつた文献が見つかるに違いない。いずれにせよ、この問題に決着をつけるためにはもう少し事例が欲しいところだ。

『えど友』の皆様、有力な事例をご存知の方はぜひお教えをいただきたい。



▲吉田屋文三郎版「江戸方角往来」(部分)

【訂正】 前第25号の3頁「第29回友の会セミナー」のタイトルの(2004/3/5)は(2005/3/5)、7頁「会議・会合日誌」タイトルの「2004/2～2005/3」は「2005/2～2005/3」、9頁「常設展を見る」第1段目「火事とは江戸の華」は「火事と喧嘩は江戸の華」にそれぞれおわびして、訂正します。

催事案内

特別内覧会

企画展「発掘された日本列島 2005 —新発見考古速報—」展

◆昨年度の発掘調査から、キトラ古墳の出土資料や修復過程、最古の寺院壁画で話題を呼んだ法隆寺(若草伽藍)、歌舞伎の江戸三座の入場木札など、特に注目されている考古学の発掘成果を見ることができます。

- ・開催日：7月11日(月) 14:00～
(受付開始 13:30)
- ・申込締切：7月6日(水)必着
- ・会場：江戸東京博物館・1階ホール/企画展示室
- ・定員：100名 同伴者可(はがきに氏名連記)
- ・参加費：会員500円、同伴者700円(当日払い)
【企画担当責任者】米山彰(事業部会)

企画展「美しき日本 大正昭和の旅」展

◆現在、多くの日本人が観光や旅行を楽しんでいますが、大正から昭和初期にも今日のような観光ブームが起りました。全国を巡りその土地の風景を写した川瀬巴水の版画、昭和5年頃アメリカで上映された日光・鎌倉等の日本の観光地の幻灯原版などから、当時の旅ブームの展開やその背景を見て、旅の感動に出会える企画展です。

- ・開催日：8月29日(月)午後(開始時間未定)
*開始時間は、申込んだ方には受講票でお知らせします。
- ・申込締切：8月23日(火)必着
- ・会場：江戸東京博物館・1階ホール/企画展示室
- ・定員：100名 同伴者可(はがきに氏名連記)
- ・参加費：会員500円、同伴者700円(当日払い)
【企画担当責任者】米山彰(事業部会)



友の会セミナー

第32回 戦後60年「ホタル帰る」 —鳥濱トメと知覧特攻隊員の物語—

講師 赤羽礼子さん

◆鹿児島県知覧町で陸軍特攻基地の指定食堂・富屋食堂及び富屋旅館を営んでいた鳥濱トメさんと特攻隊員の物語です。特攻を通じて、残された家族の無念さ、戦争の悲惨さを講演いただく予定です。

○講師略歴：あかばね・れいこ

昭和5年、鳥濱トメさんの二女として知覧町に生まれる。若い特攻隊員が出撃した当時をよく知る貴重な「語り部」。著書の『ホタル帰る』(草思社)は「ホタル」として映画化された。

- ・開催日：7月20日(水) 14:00～15:30
- ・申込締切：7月12日(火)必着
- ・会場：江戸東京博物館・1階会議室
- ・定員：100名 同伴者可(はがきに氏名連記)
- ・参加費：会員500円・同伴者600円(当日払い)
【企画担当責任者】大倉和寿(事業部会)



古文書講座

◆第1期の残り日程

●入門編

- 第1期：第2回 7月6日(水) 14:00～16:00
- 第3回 9月21日(水) 14:00～16:00

●初級編(1)

- 第1期：第2回 7月13日(水) 14:00～16:00
- 第3回 9月21日(水) 17:00～19:00

●初級編(2)

- 第1期：第2回 7月30日(土) 14:00～16:00
- 第3回 9月24日(土) 14:00～16:00

【企画担当責任者】伴野睦雄(事業部会)

お申込み方法

- ◆普通はがきに、①催事名・開催日、②会員番号、③氏名(同伴者連記)、④〒住所、⑤電話番号を明記して下記の「友の会事務局」へ。
- ◆締切：各催事の案内をご覧ください(必着)。
- ◆申込は、各催事ごとに会員1人1通。
- ◆友の会へのご意見・ご要望もご記入ください。
- ◆申込先：〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局

- *お申込みいただきますと、「受講票」をお送りします。当日ご持参のうえ、受付でご登録ください。
- なお「受講票」は逐次お送りするのではなく、申込締切数日後一斉にお送りしますので、それまでお待ちください。
- *「受講票」未着のお問合せや参加予定変更の連絡などはなるべく水曜日から金曜日にお問い合わせいたします。
- *「受講票」がないと受講できません。必ず事前に申込みをしてからご参加ください。



会員の自主的サークル・「えど友サークル」の最近の活動状況をご紹介します。

● 江戸三十六見附を巡る会

◆メンバーの中に總會の準備にかかわる人が多いため、5月の予定を6月に延期した。

● 落語・講談を楽しむ会

◆4月20日(水)に第6回会合を開催。今回はテーマを「隅田川下りとお江戸両国亭(講談)」とし、水上バスで隅田川を下りながら、隅田川などを舞台とした落語、おなじみの「たがや」、「宮戸川」、そして八代目桂文楽の十八番「船徳」が紹介された。吾妻橋際の浅草水上バス発着所から乗船し、駒形橋など13の橋を巡り、浜離宮に到着。遅咲きの桜が満開の園内を散策、中の島御茶屋では抹茶を賞味、再び船で両国船乗り場にもどった。両国のどぜう「桔梗家」で昼食のあと、お江戸両国亭の女流講談会「なでしこくらぶ」で講談をたっぷり楽しんだ。参加者は5名。

◆5月18日(水)に第7回会合を開催。今回のテーマは「両国周辺散策とお江戸両国亭(講談)」。まず回向院で鼠小僧次郎吉の墓を見て、「ももんじや」(猪鍋の店)店頭の前で一同記念撮影。橋下の両国橋東詰め垢離場(水に浴して身を清めることを垢離といい、大山参りに出かけるときにこの場で水垢離をした)跡を検証。「ぼうずしゃも」(軍鶏鍋の店)を通り過ぎて江島杉山神社、塩原橋の「塩原太助の碑」、春日野部屋、相撲写真資料館、最後に吉良邸跡などを巡って「うな市」でやっと昼食にありついた。お江戸両国亭では前回同様女流講談会「なでしこくらぶ」を鑑賞した。参加者は新規入会者を含め8名。

●各サークルとも引き続きメンバーを募集しています。奮ってご参加ください。参加ご希望の方は、はがきに①サークル名、②会員番号、③氏名、④住所、⑤電話番号、⑥Eメールアドレスをご記入の上、友の会事務局へお申込みください。

申込先 130-0015 東京都墨田区横網 1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局
Tel.03-3626-9910

●新しいサークルを立ち上げてみようという方は事務局(上記)へ関係資料をご請求ください。

会員優待のお知らせ

好評開催中!
あと数日み見逃しなく!

●企画展「新シルクロード展」

会期 2005年4月16日(土)～7月3日(日)

休館日:月曜日

図録 定価:2,200円

会員割引 10% (会場出口物販所のみ)

会員:一般650円、65歳以上320円、大専門生520円

同伴者:一般1,040円、65歳以上520円、大専門830円

●企画展

「発掘された日本列島 2005

—新発見考古速報—展

近日開催!

会期 2005年7月12日(火)～8月21日(日)

休館日:月曜日(ただし7月18日は開館、19日(火)休館)

図録 定価(税込み):1,700円(予定)

会員割引 10% (会場出口物販所のみ)

会員:一般250円、65歳以上120円、大専門生200円

同伴者:一般400円、65歳以上200円、大専門生320円

次回予告

●企画展「美しき日本 大正昭和の旅」展

会期 2005年8月30日(火)～10月16日(日)

休館日:月曜日(ただし9月19日、10月10日は開館、

9月20日(火)、10月11日(火)休館)

図録 定価、会員割引とも未定

会員:一般450円、65歳以上220円、大専門生360円

同伴者:一般720円、65歳以上360円、大専門生570円

第2企画展ご案内

好評開催中!

●「日本通史(考古～近代)」

「平成16年度収集 新収蔵品展」

開催期間 2005年6月28日(火)～7月24日(日)



江戸東京博物館友の会 会報<えど友>第26号
平成17年7月1日発行
奇数月刊。次号は9月1日発行予定

編集・制作:友の会広報部会

〒130-0015 東京都墨田区横網 1-4-1 電話 03-3626-9910

発行人兼編集長:松原 良(副会長) 副編集長:菅沼和男

編集人:岡橋園子、佐藤幸彦、大野晴美、小柳英二郎、

斎藤美香子、稲垣武志、岡田守弘、高澤美恵子、岡本静雄